３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.442-443
新年のスタート、嵐山の森倉庫の大整理

【イベント報告】相模原市民桜まつりに参加

第４４回相模原市民桜まつりが４月１日、２日に開催された。緑のダムは２０１０年の３７回から環境ゾーンの運営を実行員会から委託されている。今回は１５団体が参加し、各団体が日頃の環境活動のかかわりを広報するとともに、木工教室、ネイチャークラフト、丸太切り体験イベント、環境グッズの販売、積み木広場やミニＳＬなど多彩なイベントを行ない、来場者に身近な生活と環境・森林・木材の関係を感じてもらった。来場者はおよそ、1日目：1千人、2日目：５千人だった。

川田　浩（本会、副代表理事）

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

4月16日の嵐山定例活動報告です。まず生命の森宣言東京。生命の森宣言東京は４名での参加。午前午後を通して、作業道の整備をしました。道を作って４年ほどたっていたため、竹ホーキで道を覆っているスギの枝などを取り除き、斜面が崩れていた土をクワでかき下ろし平らに均しました。道がよみがえってうれしかったです。

森林整備班は川田晃氏、岡田滋氏、石井明夫氏、桜井教授、小林が参加しました。先月に続き春らしい陽気の中、地球環境部の学生さんが受験を終え戻ってこられたため、いつもの賑わいと活気が戻ってきた。B地区送電線沿いのスギ、ヒノキを万一の時、電線に架らないための伐採作業を行う予定で準備に掛かるが、チェーンソーや装備などを保管する倉庫の棚が入荷し、整備班で対応することにした。木で備え付けて加工された棚は歪み今にもへし折れそうな状態だったので、お願いしていた棚が本日搬入されたのだ。まず全ての道具を運び出し、チェーンソーの整備やノコギリやロープ等の点検整備を行っているとスチール棚が搬入された。昼食後から組立を始めたが、こんな時手数より口数の方が多い人が現れるものだがこれも「世の習い」と笑い飛ばし、楽しく作業を終えることが出来た。中でも森林整備班として何か違いを残したいと考え、棚の間隔を各段違え、軽量な道具を上に配置した上に収納量を増やす配列と倒壊防止対策を施した。時間が掛かったがこれなら納得して頂けるだろう。

地球環境部の活動では引き続き、電話線周りの間伐を進めています。今月は環境省グッドライフアワード環境大臣賞受賞者を対象とした取材が入り、環境省から２名、取材スタッフ２名が同行しての活動となりました。生徒は東海大望星高、杉並区立高井戸中学校OBOG、三鷹市立第二中学校在校生で２０名＋大人４名での作業となりました。間伐ポイントに向かいながら、まさか１本目で掛かり木になり、倒すのに１日かかって終わる、なんて最悪パターンにならないだろうな、とお互いにプレッシャーをかけあうというなかなか緊迫したスタートになりました。まず参加者を４チームに分け、選木から始め、受け口、追い口をいれていきました。高校生以上の慣れた生徒のリードもあり、１本、また１本と順調に倒れていき、沢にかかってしまい手に負えない

時は私の方でチェーンソーで玉切りにして処理する、というチームワークで作業は進みました。本番に強いと言われる高井戸中生の力なのか、欠頂木０．５本を含む６．５本を間伐しました。最後には「今日はいい日だった」という安心しきった生徒の顔が印象的でした。環境省の方からもここまで本格的とは、と驚きのコメントを頂き、お帰りいただきました。来月は学芸大の樋口先生が授業の一環として大学生と参加されますので今回のようなミラクルと言わないまでも着実に安全に作業をしていきたいと思います。

Forest Nova☆は参加人数3名。今回は５月初めのNHKのイベントである『渋谷deどーも』のために木材加工を行った。質の良い木がなかなかなくて材を選ぶのに苦労した。木を探していると森の中には杉の葉がたくさん落ちてはいるものの、腐って土になっている様子がないことに気づいた。カブトムシ牧場の件で、葉っぱを積み重ねるだけでは腐葉土はなかなかできないことを痛感していたので、このままでは豊かな土壌はできないのでは？と思った。フォレストノバの目指す生物多様性の森はどうしたらできるのか、その答えを見つけることを目標に加えることにした。現在一つ問題を抱えている。フォレストノバにはチェーンソーを使える人がいないのだ。作業がはかどらないと思うことがよくある。今年はチェーンソー免許取得、を検討しよう。

お花畑班は薄井さん、岡田さん、瀧澤さん、丸茂の４名。午前10時作業開始。3月とは趣が変わり、スイセン、チューリップ、ヒヤシンスなどが華やかに咲き誇っていた。作業内容は、午前中は石井さんが小原で調達してくれた竹でバラ園周りの生垣を仕上げる予定だ。道路面からの修景を考え、半割りの竹を少し間隔を置いて立てていった。まず、半割の竹を作る作業と、それを立てる作業に分かれ進めた。モッコウバラはまだ開花していなく、アーチを補強する作業は開花を楽しんだ後着手することにした。花畑も季節ごとに楽しめるクリスマスローズなどの宿根草をもっと植えることを話し合った。バラ園の野ばら、山椒バラなどの枝を剪定した。雑誌『マイガーデン』にフランスのメイアン社から贈られたバラをバラ園に１年前に植えてみたが、育たなかった。またトライしてみようと思っている。シンボル樹として友人の清水さんと植えたトネリコの木もなぜか枯れてしまった。内野さんが植えてくれたラズベリー、ブラックベリーもほとんど育たなかった。一か月1回の活動で育つものに限界を感じた。午後も竹の生垣づくりを継続して行い、縦にさしていった半割の竹を、男結びで固定する作業を次回に残しほぼ完成した。また、花畑にあるキリの大木が一部枯れているので森林整備班に協力していただき、次回以降伐採したいと思っている。

活気ある嵐山の森

今月は活動チームのシャッフルが行われ、交流が深まりました

来週末は小原の孟宗竹林にタケノコが沢山出ることでしょう。イノシシさんに取られる前に我々で奪取したいと思います。是非の参加をお待ちしております。今月も原稿編集はForest Nova☆の五味が担当させていただきました。皆さん今回は倉庫の整備を頑張っていらしたように思います。フォレストノバもより良い活動ができるように努めています。また３月に参加してくれた子どもたちの感想も届きましたのでご紹介します。　　五味　輝史（Forest Nova、副代表）

幼稚園生に大人気”カブトムシ”の幼虫がいると聞いて、「カブトムシ牧場」へ4家族15名で遊びに行きました。どんな所かと子どもたちもそれぞれ想像しながら行ってみると、カブトムシの幼虫が育つために必要な湿った土、嵐山の落ち葉が木枠で作られた柵の中にたくさんありました。まさにカブトムシの幼虫にしてみたら”牧場”のようなベッド!! ワクワクしながら、用意しておいてくださったスコップで掘っていくと、、、「うわぁーたくさん！」という喜びの声を楽しみにしていたのですが、まったく幼虫の姿が見えない…。昨年までは枠からあふれる程いたようなのに。木枠の下の側面と底は網で囲まれていて、モグラの進入を塞ぐようになっているそうです。ではなぜ幼虫がいないのか？確実なことは分かりませんが、土の上に乗せてあった落ち葉があまり腐らず土になっていないとのこと。嵐山での活動途中に見つけた幼虫を”牧場”に入れているそうなので、自然のまま育つ幼虫はもっと色々なリスクがあるのだろうな、生まれてくることは奇跡に近いことなのだなと思いました。幼虫探しの後は、みなさんがお昼にいただいている具沢山のスープをいただきました。野菜嫌いの子ども数名が、美味しい美味しいと信じられないくらい食べていて驚きでした。ごちそうさまでした。そして、カンゾウという山菜を教えていただき、その晩おひたしにしていただきました。甘みのある味で子どもでも食べやすかったです。またいつか、幼虫が育った年に遊びに行きたいと思います。その頃には幼稚園生も小学生になって、山のお話を聞きながら間伐体験もできたらと思います。　　（古谷　真以子）

【若者の森づくり】地球環境部

４月になり、地球環境部も新しい体制となりました。顧問の私がこの４月より（また）転勤となり、小金井市にあります東京学芸大学附属小金井中学校での勤務となりました。これまでの活動は地球環境部、という学校部活動でしたが、本校では総合的な学習の時間の、課題研究という枠組みでの取組みとなります。現在私が担当する講座、「実際に取り組む環境問題」で相模湖・嵐山の森をフィールドに一人一人が自分なりのテーマを持ち、これまでの間伐、枝打ち、下草刈りを中心に取り組んで行きたいと思います。講座の登録は２８名となっております。順次嵐山での活動に参加させて行きたいと思います。（ちなみに希望者は６８名でしたので、講座の受講はできなかったが森での活動には参加したいという生徒もいると思います）また同時に私の出身でもある同大の環境教育研究センターが同じ敷地内、徒歩数分内にあります。これまで以上に様々な形での連携が進む予定です。今のところ、積み木の取組みでの協働を企画し、本校生徒も活動発表の場として参加予定です。

これまで参加してくれてきた東海大望星高校の生徒、杉並区立高井戸中学校の生徒OBOG、三鷹市立第二中学校の生徒OBOGとともに「緑のダム北相模・地球環境部」として活動をしていきます。今年度は従来のNPO法人２２世紀やま・もり再生ネットさまに加え、積水ハウスマッチングプログラムさまからも助成いただけることになりました。ご支援、ご期待に添える活動をしていきたいと思います。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。　宮村　連理（本会、副代表理事）

【若者の森づくり】Forest Class

【年間の活動報告】ForesTo Classは昨年の４月からForest Nova ☆OBOGが集まり、社会人グループとして森林保全活動を展開するために活動をスタート。この４月で約1周年となりました。目的はこれからの森との暮らしの構築を目指し、[1]持続的な山づくり、[2]森林の利用価値を高めるための散策や間伐イベントの実施、[3]木材の有効活用のための商品開発と発掘を柱として進めてきました。

今年1年の成果は永井広紀さん、永井雅夫さんの山である萩山を活動拠点として下草刈り、枝打ち、間伐を行い、整備がほぼ完了したこと。間伐した丸太をスウェディッシュトーチに仕立て、間伐体験とその活用に繋げるイベントを企画しました。今後は新たなフィールドの展開とさらなる木材の活用についてのアイデア創出を行なっていきたいと考えています。

【メンバーの近況報告】

■滝澤：４月から仕事の関係で北海道在住となりました。こちらでは人工林というエリアではなく、広大な湿地や草原を前にして別の価値観で森林をとらえる必要があると思いました。山海川といった農林水産全体で俯瞰してみて、ForesTo Classとして何かできないか考えていきたいです。また、現状ForesTo Classは20〜30代の少数社会人メンバーのため日々の仕事との両立が難しいです。今後も活動を継続することを大切に取り組んでいきますのでご協力お願いいたします。

■加藤：私は仕事で観葉植物のレンタルをしています。どの観葉植物も受け皿の上に鉢向き出しで置くのでは格好良くないので、鉢カバーという鉢より一回り大きな器に入れて設置をします。以前は陶器やプラスチックが多かったですが、最近間伐材を使用し木目や木の質感を残した木製鉢カバーが新商品として出てくるようになりました。この鉢カバーを使用すれば、ただ観葉植物を設置するだけで日本の森づくりの助けになる、CSR活動の一環として発信出来るという謳い文句の商品です。それだけではCSR活動としては弱いだろうと思いますが、間伐材の利用法が増えていくのは嬉しい事です。観葉植物と相まって柔らかい雰囲気つくりが出来る間伐材鉢カバーは実際提案してまわると結構好評で、割高にも関わらず導入して頂けるケースが多いです。どのお客様もCSR云々というよりその木の質感に魅力を感じて頂けて、の事ですが。映像関係のお客様と「最近こういう間伐材で出来たもの流行ってるよねえ」といった話をした事もありました。間伐材の使用が日本の森林問題解決に繋がることが少しずつ周知されてきたのだと感じます。観葉植物のレンタルは緑を扱う仕事ではありますが森との関わりはありません。その仕事に就いている私が鉢カバーを通じて極めて微々たるものといえど森林問題解決に寄与し、その話を普段森に出入りしない方と出来るのは嬉しい事ですし面白い事だと思います。今後も活動日は直接、平日は間接的に森と接していきたいと思います。

【若者の森づくり】Forest Nova

Forest Nova☆は4月、桜まつりに参加したほか、新入生歓迎会を行いました。先輩方が卒業してしまい、フォレストノバの活動は、またゼロから始めなくてはならない状況となりました。桜まつりでは箸づくりをしましたが、どうすればお客に気づいていただけるのか、企画の内容は適切だったのかといった疑問がいくつもわきました。それと同時に、今度はどんなことをしようかと考えるようになりました。今までは先輩方についていくだけでしたが、これからは自分達でフォレストノ

バの活動を育てていくのだと実感したイベントでした。自由に活動内容を変えていける点はフォレストノバの魅力の一つと思います。時には未熟で頼りないように見える時もあるかもしれませんが、緑のダムの皆様、小原地域の方々といった多くの方々に支えて頂けるおかげで、頑張っていけます。

さて、新入生歓迎会はどうだったかというと、苦労の連続でした。なかなか人が集まらず、大学内での知名度の低さを痛感しました。「結構頑張って活動しているのに、やっぱり広報活動が足りないのかなぁ・・・」などと落ち込んでいると、いつもフォレストノバを助けて下さる原田先生が、フォレストノバ紹介を手伝ってくださいました。原田先生のほか数名の先生方にも助けていただき、数名がクラブに入ることを考えてくれました。ありがとうございました。今後もクラブメンバーが増えていくように広報活動を積極的におこなっていきます。またより良い活動ができるように努めて参ります。

五味　輝史（Forest Nova、副代表）

【事務局より】

緑のダムを世界に発信

本会代表理事の石村が常日頃から大風呂敷として広げさせていただいております、「世界に発信」ですが、東京都市大のコンテストでの最優秀賞受賞記事をジャパン・フォー・サステナビリティさんより英語記事にて世界に発信していただきました。ウェブ記事はこちらになります。

日本自然保護協会、自然保護大賞入選

昨年末ですが、同コンテストにて受賞は逃しましたが、入選いたしました。中高生が活動する望星の森で、荒廃が進む人工林で間伐、枝打ちが進んだことで、ほとんど下草がない状態から100種類を超える下草が生えるまでに多様性が戻っていることを評価していただきました。今年度も再挑戦したいと思います。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。